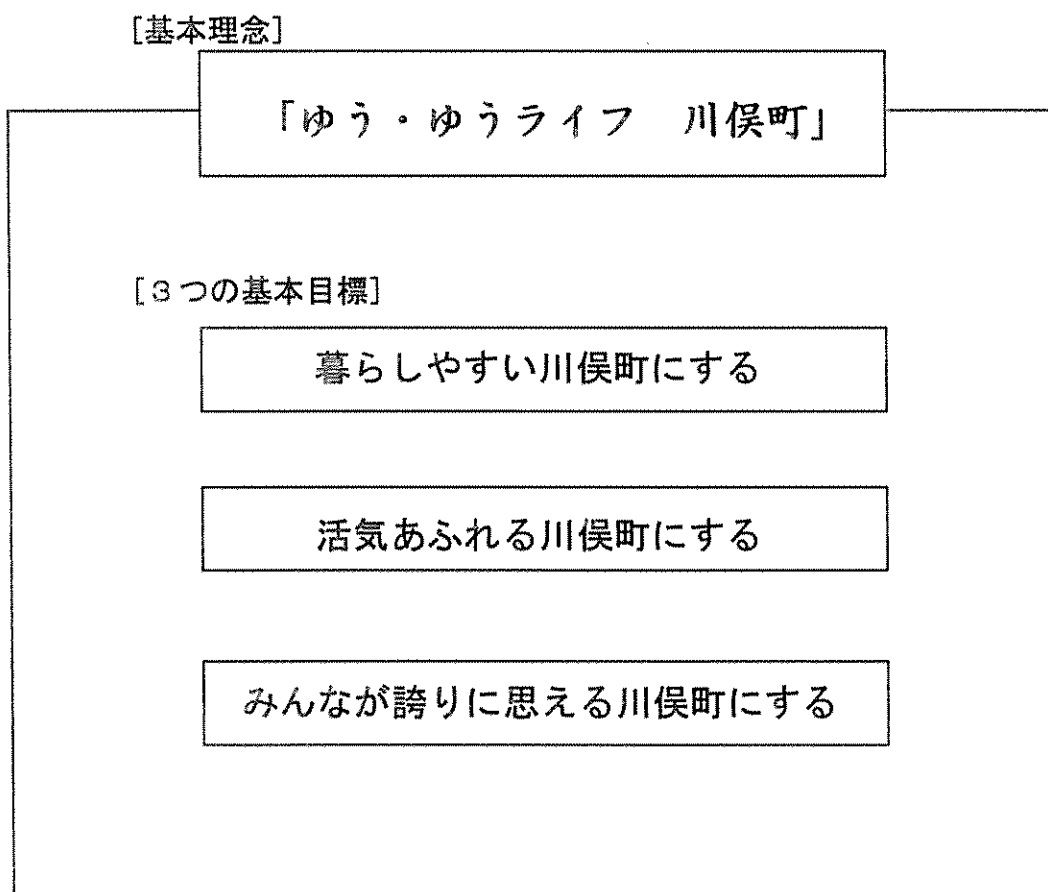


第3章 川俣町の全体整備方針

1. まちづくりの基本理念

(1) まちづくりの理念と3つの基本目標

川俣町では、平成7年3月に町民の方々の参加により「川俣町活性化基本・実施計画」を策定し、その中で町の課題や地域資源を見直しながら、町を活性化するための目標を掲げています。まちづくりを実施する指針となる本マスタープランを“関連性”と“継続性”のある計画とするため、川俣町活性化基本・実施計画の目標を受け継ぎ、「暮らしやすい川俣町にする」「活気あふれる川俣町にする」「みんなが誇りに思える川俣町にする」の3つを基本目標として、「ゆう・ゆうライフ川俣町」の実現を図るものとします。



(2) まちづくりの視点（9つの柱）

まちづくりの3つの基本目標を実現するための基本的な視点として、次のような9つの柱を立て、まちづくりを進めるものとします。

■まちづくりの基本理念

[まちづくりの目標]

ゆう・ゆうライフ 川俣町

[3つの目標]

暮らしやすい
川俣町にする

活気あふれる
川俣町にする

みんなが誇りに思える
川俣町にする

[9つの柱]

みんなでつくる
住みやすいまち

個性あふれる
学びのまち

青い空と緑と水
が豊かなまち

誰もが安心して
暮らせるまち

交流で人の
あふれるまち

歴史と伝統を
大切にするまち

やすらぎと憩いの
ある安全なまち

魅力あふれる
産業のまち

ハートやホー-リを
創造するまち

①暮らしやすい川俣町にするために…

みんなでつくる住みやすいまち

川俣町には、昔からの蔵や鋸屋根の機織り工場、町の中心部を流れる広瀬川等、個性的で優れた景観を醸し出している地区があります。これらの景観・資源を守りながら、更に住みやすい町を目指し、住民のまちづくりへの積極的な参加が求められています。

誰もが安心して暮らせるまち

子供からお年寄り、ハンディキャップをお持ちの方とともに活動し、安心して生活していけるまちを目指し、医療・福祉・保健の連携を図ることが必要です。また、地域社会を支える豊かなコミュニティづくりを進めるとともに、公共施設の障害等を無くし、誰もが利用しやすい施設とするバリアフリー化等を推進していくことが求められています。

安らぎと憩いのある安全なまち

阿武隈山系は地盤が強固であり地震に対しては比較的安全であると言われていますが、町内には老朽化した木造住宅の密集地区や防災上問題のある狭あい道路、耐震性等の劣る公共施設などがあり、防災的観点からみて多くの課題があります。こうした防災上の課題を解決するとともに、交通安全、防災等の日常生活における町民の意識を高め、安全で快適なまちを実現するために、町民・企業・行政が一体となったまちづくりの取り組みが求められています。



地区懇談会

②活気あふれる川俣町にするために…

個性あふれる学びのまち

川俣町には8小学校、2中学校、1高等学校があり、豊かな自然環境に囲まれた学習環境に大変恵まれています。人口流出、核家族化、少子化等の波が押し寄せつつあり、児童数の減少が懸念されています。これにより複式学級化等の問題が予想されるため、教育環境を維持するための様々な施策を講じ、将来を担う子供たちが個性を伸ばして成長していくための環境を整備していく必要があります。

また、白寿大学や川俣塾をはじめとする生涯学習の機会や人材育成・人づくりの場をさらに充実させていくことが求められています。

交流で人のあふれるまち

川俣町には古くから交通の要衝として、また、周辺地域の商業の中心地として栄えてきた歴史があります。現在でも数々の祭りやイベントが開催され、多くの人々が川俣町を訪れている他、スポーツや文化活動を通じて他地域との交流が盛んにおこなわれています。

活気あふれる川俣町にするためには、こうした他地域との交流の機会を一層充実させるとともに、既存市街地の商店街活性化、鶴沢地区の沿道型商業施設の集積をはじめ、道の駅や川俣町体育館、合宿所（とれんぴあ）等を有効に活用し、交流人口の拡大を図ることが期待されています。

魅力あふれる産業のまち

川俣町では繊維産業の他、飯坂地区に機械工業等の集積があり、工業団地としては中山工業団地の造成が終了し、鶴沢地区では西部工業団地の計画が進められています。しかし、近年町内の工業出荷高は低迷しており、町内に働く場が少ない等の理由から若者の町離れが進んでいます。こうした中で、工業団地の造成ばかりでなく、地場産業、伝統産業を含む広い視野から、若者にとって魅力的な産業を育成していく必要があります。

③みんなが誇りに思える川俣町にするために…

青い空と緑と水が豊かなまち

川俣町には多くの自然が残っています。のどかな田園風景や山々、街中を流れる広瀬川等、これらの緑・水等の自然環境は町民の心の拠であり、町の財産でもあります。これらを次世代に引継いでいくことは、まちづくりの基本であり、町民・企業・行政が一体となってこれらの自然環境を大切に保全していく姿勢を明確にすることが必要です。特に、新たな住宅地の開発等においては、自然環境を活かしたゆとりのある計画とすることが求められています。

歴史と伝統を大切にするまち

川俣町は古くから養蚕、絹織物の町として栄えてきた歴史があり、今なお「蔵」や「鋸屋根の工場」などを見ることができます。また春日神社や常泉寺、河股城跡、薬師堂等の史跡や文化財も多く、これらの歴史や伝統を大切に保全し、次世代に引き継いでいくことが「川俣町らしさ」を確保していく上で重要となっています。

イベントやスポーツを創造するまち

川俣町には全町を挙げて盛大に開催される4大イベント「川俣町ロードレース大会」、「健康づくり大運動会」、「コスキン・エン・ハポン」、「絹市」があります。

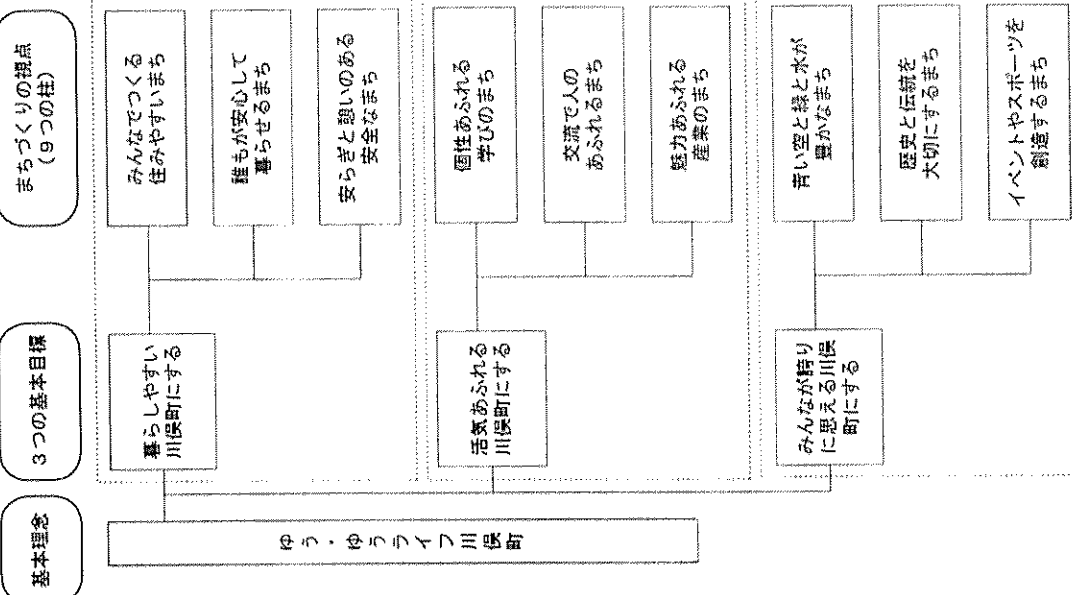
このほかにも「夏祭りからりこフェスタ」や「春日神社流鏑馬」など数多くの祭りやイベントがあり、町内外から多くの人が町を訪れ、賑わいを見せています。

また、町内には川俣町体育館や農村広場をはじめ、イベントやスポーツの場として、相当規模の施設がすでに整っています。これらの施設やイベント等の機会を有効に活用しながら、活気のある川俣町を町内外にアピールしていくことが求められています。

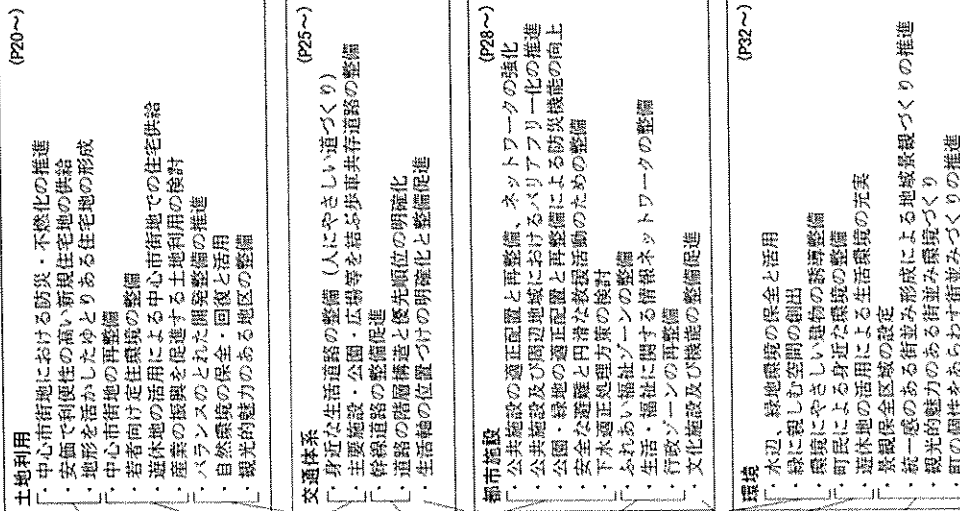


地区懇談会

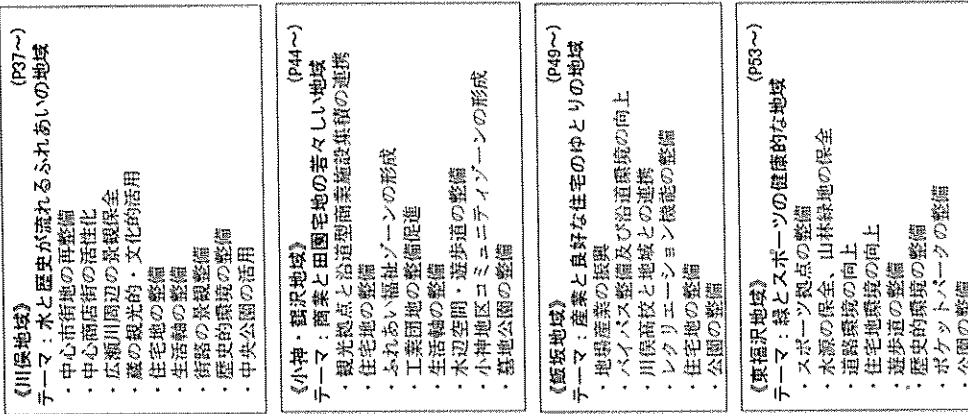
まちづくりの理念体系図



都市計画の基本方針



地域づくりの基本方針



2. 都市構造の方針

川俣町の都市構造は、古くから交通の要衝として栄えてきた中心市街地を中心に、国道114号、国道349号、主要地方道原町川俣線沿いに発達してきました。川俣町の将来都市構造としては、既存の都市機能・都市基盤の集積を最大限に活かし、その更新・再整備を図ることにより、現在の中心市街地を核とするコンパクトで質の高い市街地を中心とした構造としていきます。

具体的には、中心市街地において行政機能、福祉・保健機能、商業機能の計画的整備を進めるとともに、川の流れや歴史的な景観を保全整備することによりまちの個性を引き出し、中心市街地及びその周辺に、魅力的な住環境を創造していきます。さらに田園に囲まれた良好な集落の形成を図り、山々に囲まれ自然と調和した街並みを形成していきます。

また、川俣町の骨格形成のために、交通、自然・歴史環境、都市環境に関する軸として、交通軸、緑と歴史の環境軸、生活軸をまちづくりの主要な要素として明確に位置づけて、3つの軸の形成を図ります。

(1) 市街地再整備と機能ゾーン整備の目標

①中心市街地の再整備

- ▶ 行政サービスの中心としての役割強化
- ▶ 街並みの保存・景観形成
- ▶ 中心商店街の活性化
- ▶ 住環境の整備・防災不燃化の促進
- ▶ 土地の高度利用・共同建て替え等による定住人口の回復

②機能ゾーンの計画的整備

- ▶ 福祉・保健ゾーンの整備・機能強化
- ▶ 行政・文化ゾーンの位置づけ
- ▶ 沿道大型商業施設による沿道商業ゾーンの整備

(2) 3つの軸づくりの目標

①交通軸

川俣町の発展を支えてきた東西に走る国道114号と南北に走る国道349号の2つの国道は、現在、中心市街地を迂回するバイパスの整備が進められています。これら2つの国道は、福島市までのアクセス道路として、さらに周辺市町村からのアクセス道路として、広範囲な地域を結ぶ主要幹線であり、今後も重要な役割を担う“交通軸”であると位置づけられます。

②緑と歴史の環境軸

春日神社、常泉寺、河股城跡、薬師堂などに代表される歴史的文化財と、中央公園や周辺の山々の緑は、川俣町にとって次世代に伝えていくべき貴重な資源です。

川俣町の将来都市構造として、この貴重な資源を活かすために、中心市街地を包みこむ“緑と歴史の環境軸”の整備を図ります。すなわち、春日神社から常泉寺、後庵館、中央公園を経て、河股城跡、さらに川俣町体育館から薬師堂、農村広場にまで至る軸を整備し、町民の憩いの場とするとともに、周辺の緑地環境の保全を図ります。

③生活軸

バイパスの整備により、中心部を通る旧国道114号は、交通量が減少し、生活者にとって身近で安全な道路へと姿を変えつつあります。さらに国道349号においても同様の現象が今後起こることが予想されます。

一方、旧国道114号及び中心商店街は、機能ゾーンを結ぶ通りであり、公共公益施設が集中しています。また、都市構造的にも中心の軸となっています。このため、かつては通過交通の多い自動車が主役であった通りを、歩行者に安全で町民生活に身近な機能が集積した軸として整備することで、町民の生活を支える基盤に相応しい“生活軸”として位置づけて整備を進めていきます。

■将来都市構造図

